

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		*	*	*
		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・お盆の動きが良かったため、多少良い方向に向かっている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・最近では来客数が多くなっており、前年と比べても10%以上伸びている。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・連休からお盆まで日並びが良いため、この期間の来客数が好調である。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・店頭での商談に対して積極的に応じる客が増えており、買換え提案への関心が高まっている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月中旬の日並びが良かったこともあり、例年の数字を上回ることができている。しかし、昼の来客数が10%近く減っているため、安定した営業であるとは言い切れない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・7～8月は例年より来客数の動きが良くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、宴会、レストラン部門共に堅調に推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夏休みの時期であり、家族で出かける客が多くみられる。また、いろいろな催物もあって人出が多い。特にお盆を中心にタクシー利用客が多く、猛暑の影響もあって利用増につながっている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・5月以降は低迷が続いている一方で、8月は例年閑散月にもかかわらず少しずつではあるが、客からの契約に関する問い合わせ数が増加している。それに伴って契約数も若干増えている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・月の来客数が1.2倍ほど増え、販売量も増えている。週末だけでなく平日の来客数が特に増えている。
		通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・想定よりも来客数が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順や猛暑などによって初秋衣料への関心が薄く、来客数が伸びない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・7月は猛暑で、盛夏衣料や飲料品の需要が一時的に増えた。8月は月初の暑さが好影響となったものの、お盆過ぎの天候不順により夏物需要の反応は鈍く、回復傾向がみられない。県外客の入込を期待したものの飲食関係の客のみであり、全般的には低調である。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	お客様の様子	・夏期休業の会社もあったため、会社備品を購入する客の購買計画や意欲が、普段の状況とは異なる。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・8月はかなり天候不順だったものの、日並びが良いためか、お盆休みの前後に旅行客が例年より目立って多い。例年であれば8月15日を過ぎて閑散となるが、今年は人出が減ることがない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8月11～16日の山の日を含んだ6日間のお盆休み期間中は、日並びが良かったため来客数が増えて、前年比プラス10%と好調に推移している。また、婦人ファッションにおいても、晩夏、初秋物の衣料品が前年に比べて早く動いている。8月は前年実績を超える見込みである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・7月に続き8月も天候に左右されやすかったが、お盆時期になると帰省客などによって来客数が増え、前年ペースにまで売上が伸びた。結果として前年を上回る数字で推移した。客の買い方は慎重なままだが、お値打ち品や秋にかけても使えるものを吟味して購入していく様子である。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ヤング層を中心に秋物衣料と雑貨関連の動きは好調だが、ミセスを対象とした中間層の動きが相変わらず鈍い。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・今年の旧盆セールは、8月11日の祝日から帰省が始まって前年に比べて1日多く、期間中は来客数が増加して、売上は前年を上回った。しかし、8月の下旬と下旬は、ほぼ前年並みに推移している。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・天候による農作物の相場の上下があったものの、販売量でみると変動は少ない。お盆期間には競合店の影響を受けた店舗はあるが、総じて前年並みである。	
	スーパー（統括）	来客数の動き	・購買意欲に変化がみられない。来客数は伸び悩んでいる。	

	スーパー（店舗管理）	単価の動き	・曜日などの影響もあるが、お盆商戦の来客数は前年並みである。しかし、客単価は前年を超えていない。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・景気は停滞しているようである。8月の天候が例年と比べて暑くなかったため、衣料の販売にプラス材料になるかと思込んだが、皮算用に終わった。景気停滞の要因は、気温だけではないようである。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・お盆で帰省中の客が、例年になく少ない。
	衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・既存店の販売量ベースでは、ここ数か月は前年を上回る推移となっている。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温の高い夏でありながら天候の悪い日が多く、季節商材であるエアコンの動きが鈍くなっている。
	家電量販店（本部）	販売量の動き	・季節要因を除けば、販売量は3か月前と変わらない。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車が発表されたが、販売量は前年と変わらない。まだ需要が増えているようにはみえない。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・定期的に自社イベントを行っているが、販売量に大きな変化はみられない。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・8月の販売量は前年同月比102%の見込みである。3か月前の販売実績が前年同月比103%であったので横ばいである。
	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・スタッドレスタイヤの値上げ前の駆け込み需要により、タイヤ販売は前年から大きく伸びている。しかし、少しでも安く抑えたいとの客が多く、価格には敏感である。車検特需は続いているものの、人手不足によって対応ができない状況であり、採用関係は厳しい。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・当地域では7月と同様に大変暑い日が続く、ビールよりも飲料水が売れる状況で、肝心のビールがそれほど伸びていない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕	来客数の動き	・衣料品は盛夏物を中心に、住まいの品は暑さ対策品や寝具、インテリアが良かった。フルーツギフトや手土産に動きがあったものの、数量や単価は前年割れになっている。お盆期間中は祝日が絡む前半とお盆期間が二分され、盛り上がりが少ない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	来客数の動き	・お盆期間でも8月全体としても来客数が前年を上回っている。また、客単価についても前年を上回っている状況である。ただし、購入率が前年を下回っている関係で、館全体の前年比はほぼ前年並みとなっている。衣料品については前年にやや届かないものの、一時期の不振からは脱却している。ほかには、シネマが前年比で苦戦しており、雑貨と食料品が好調である。
	一般レストラン（総括）	それ以外	・客の外食ニーズはあまり変化がない。良くも悪くもない状況が続いている。しかし、人手不足と過重労働対策のため営業時間を短縮したり、臨時休業などで販売のチャンスロスが目立つようになっている。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・例年8月は客室がほぼ満室の状態が続くが、今年は前半10日までの集客が悪かった。しかし、それ以降はほぼ満室の状態である。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上74%、宿泊人数76%、宿泊単価98%であり、全館貸切りの日もあったが団体客が減少し、個人客も伸び悩んでいる状況である。宿泊料金帯でみると中間クラスの部屋棟の受け入れが多かったこともあり、平均宿泊単価は前年割れとなっている。
	都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門の景気動向は変わらない。レストラン部門も同様に、店舗によって異なるが景気動向は変わらない。婚礼部門の販売量減少を一般宴会で補っているが、全体の景気動向は変わらない。
	旅行代理店（所長）	販売量の動き	・売上実績、受注状況共に前年とほとんど変わらない。
	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・社員旅行の需要動向に変化がない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・日中はまずまずの仕事があるが、お盆を過ぎてから深夜の仕事が非常に少なくなっている。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約獲得数は、数か月ほぼ変わらない。ただし、競合他社の影響で解約数が増加傾向にあり、結果的に契約数は足踏み状態にある。
	その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・夏休み中の子供向け特別教室の集客が前年割れしている。大人向けは少ないながらも動きはあるが、子供向けは厳しい。

	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注棟数が横ばいで、変化はみられない。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・毎年、お中元の購入客が減少している。デパートの 売場も縮小傾向で、混雑している様子はない。お中元 に対する客の行動変化が、商店街の来客数減少の大き な要因の1つと考える。
	スーパー(店 長)	販売量の動き	・鮮魚、農作物共に高値が続いており、客の購買意欲 に陰りがみえる。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・衣料品の販売は、依然として低下傾向が続いてい る。人手不足のため経費だけが上がり、経営的には大 変厳しい。
	住関連専門店 (役員)	来客数の動き	・夏休み期間の来客数増加やお盆需要による販売量増 加を期待したが、例年にないほど来客数の減少が大き い。
	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・5～7月にかけては梅雨の時期も含めて比較的天候 が良く、観光客の動きも良かったが、8月は例年と比 べて非常に雨が多かったため、観光客の動きが鈍った ようである。また、現在は有効求人倍率が非常に高く、 採用は困難となっており、そうした面でも営業に やや影響が出てきている。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・ここ3か月ほど連続して来客数が前年割れしてい る。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・問い合わせやイベント来場数が減っている。現在、 客単価が高くなっているものの来客数は減っており、 今後の売上高はあまり期待できない。
	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・新規客が減少している。
	x スナック(経営 者)	来客数の動き	・天候不順の影響により、営業状態の良くない経営者 などは、ぱったりと来店しなくなった。客の年齢層が 高い当店においては売上が例年の6割ほどで、開店以 来最悪の状態となり赤字である。
企業 動向 関連 (北陸)	*	*	*
	プラスチック製 品製造業(企画 担当)	受注量や販売量 の動き	・住宅着工件数が前年比プラスで推移しており、受注 量、販売量は底堅く推移している。
	一般機械器具製 造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・北米と国内の受注が順調である。欧州も悪くはない が、他市場に比べて低い状況である。また、最先端の 高性能加工機はコンスタントに受注できている。
	輸送業(配車担 当)	取引先の様子	・物流量は増加していないが、人手不足が深刻化して 輸送コストが見直されることで、徐々に運賃是正の成 果が出ている。
	司法書士	取引先の様子	・建設業の許可更新を行う業者で、完成工事高の数字 がこれまでより良いところが多くなっている。
	食品品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・ここ半年くらいは販売実績が前年同月を上回って推 移している。引き続きコンビニエンスストア向けの商 材が好調である。
	繊維工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・衣料分野については4～6月に比べて改善がみられ るものの、一部の大手サプライチェーンの商品を除い て国内、輸出共に受注確保に苦労している。
	繊維工業(経営 者)	取引先の様子	・衣料関係については、消費の動きが非常に慎重であ る。ロットも非常に多品種少量になっているため、非 常に厳しい。非衣料分野については低位安定の状態 で健闘している。
	化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・受注量は順調に推移している。
	精密機械器具製 造業(役員)	受注量や販売量 の動き	・生産量、国内販売量共に特に大きな変化はなく、こ こしばらくは変わらず推移している。
	建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・地元の自治体の工事発注量は、全体として前年同期 を下回っている。しかし、当社の受注は前年並みで推 移している。
	建設業(役員)	受注価格や販売 価格の動き	・首都圏を除き、特に当地域の一部では受注価格競争 が厳しい状況である。
	輸送業(配車担 当)	受注量や販売量 の動き	・主要荷主の荷動きに特に変化がなく、安定してい る。
	金融業(融資担 当)	受注量や販売量 の動き	・夏の天候不順の影響で、山岳観光ルートの入込客数 が前年比約1割の減少となっているようだが、他の業 種は堅調である。

	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先との対話からは、全体的に景気の変化を感じない。業績好調な製造業者が多い一方で低調な小売業者は多く、まだら模様になっている。投資マンションなどの不動産関連は、投資利回りがますます低下しており、過熱感から地方でもピークアウトのタイミングにきている。
	税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の製造業や建設関係から、発注元からの値下げ要求があるとの話を多く耳にする。なかなか値段を上げることができない状態が、今の下請中小企業の経営者がさらされている現状である。一方で、人手不足のため雇用単価は上げざるを得ない状況である。新入社員との給与は上げて、既存の従業員や高齢の従業員の給与に波及させることがなかなか難しい状態で、やりくりに苦労しているという話を多く聞いている。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者から聞いた話では、今は動きが少し止まっているということと、法人関係からの問い合わせが止まっているということから、やや悪くなっていると回答した。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)			
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの求人数が増加傾向にある。企業が求人募集を行っても、応募がないとの声が多い。
	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・有効求人倍率は依然として高いものの、求職者のスキル不足と人手不足が重なり、マッチング率は悪い。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	雇用形態の様子	・求人広告数は、前月に続いて前年同月比90%弱と全体の傾向は変わらない。しかし、前年に比べてパート求人の割合が、40%弱から60%程度へと大幅に上がっている。正社員の採用が、採用環境の悪化やある程度の充足で収まりつつあり、パート補充でつなぐ方向になっていると考える。そのため、景気動向は大きく変わらないとみている。
	新聞社 [求人広告] (営業)	周辺企業の様子	・客の周辺企業から、販売量に関することや新事業の話はあまり出てこず、聞こえてくるのは人手不足についてのみである。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人数が前年度と比べて増加しており、一方で求職者が減少しているため、事業所の人手不足が深刻になってきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の雇用統計では、新規求人数がやや減少という数字が出ている。フルタイムとパートタイムが共にわずかながら減少という動きである。しかし、全体的にみると高止まりの横ばい状態と言える。
	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	・学生の内々定の状況は前年同時期より1割ほど早く進んでいる。特に理系の就職志望者の内定者が、7月末で9割を超えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告1回の発行で、20件ほど掲載件数が減っている。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介と派遣契約の受注数が、共に減少気味である。3～4か月前より3割方減っている。
	x	-	-